

現代日本学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
現代日本学学芸分析特論 Ⅰ	日本演劇論	2	赤井 紀美	2	火曜4限
現代日本学学芸分析特論 Ⅱ	〈怪異〉メディア論	2	茂木 謙之介	1	火曜5限
現代日本学学芸分析特論 Ⅲ	人形の文学・文化論	2	西原 志保	2	木曜3限
現代日本学学芸分析特論 Ⅳ	ヴィランの文化	2	小松 史生子	1	集中講義
現代日本学歴史分析特論 Ⅰ	修養と教養の女性史	2	大澤 絢子	2	集中講義
現代日本学社会分析特論 Ⅰ	現代日本における家族と 人口	2	田中 重人	1	水曜2限
現代日本学総合演習Ⅰ	現代日本学の実践	2	田中 重人	1	月曜5限
現代日本学総合演習Ⅱ	現代日本学の実践	2	田中 重人	2	月曜5限
現代日本学学芸分析研究 演習Ⅰ	日本戯曲分析	2	赤井 紀美	1	火曜3限
現代日本学歴史分析研究 演習Ⅰ	人物・作品から考える日本 の近代・現代	2	雲然 祥子	1	金曜2限
現代日本学社会分析研究 演習Ⅰ	現代日本における社会問 題の分析	2	田中 重人	2	金曜4限

科目名：現代日本学学芸分析特論 I

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：赤井 紀美

コード：LM22401, 科目ナンバリング：LJS-0HS601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本演劇論

2・授業の目的と概要：古代から現代にいたるまでの日本の芸能と演劇について、様々な視点から講義する。
現代の日本文化にも大きな影響を与えている芸能・演劇について、歴史的な事例を通して理解を深めることを目的とする。

3. 学習の到達目標：日本の芸能・演劇の歴史、特性について理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は講義を中心に進める。

第1回：イントロダクション

第2回：古代の芸能・演劇

第3回：古代の芸能・演劇

第4回：中世の芸能・演劇

第5回：中世の芸能・演劇

第6回：中世の芸能・演劇

第7回：近世の芸能・演劇

第8回：近世の芸能・演劇

第9回：近世の芸能・演劇

第10回：近世の芸能・演劇

第11回：近世の芸能・演劇

第12回：近現代の芸能・演劇

第13回：近現代の芸能・演劇

第14回：近現代の芸能・演劇

第15回：近現代の芸能・演劇

5. 成績評価方法：出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：授業内で指示をする。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学学芸分析特論Ⅱ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：茂木 謙之介

コード：LM12502, 科目ナンバリング：LJS-0HS602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：〈怪異〉メディア論

2・授業の目的と概要：本講義においては、近代に日本における〈怪異〉とメディアの関係について考える。しばしば日本における近代化は中央集権化と合理化によって説明される。では非合理的な〈怪異〉は如何なる近代を経験したのだろうか。近代の文化・文学現象を素材に、思想や政治、軍事、宗教など様々なトピックと関連させて議論を試みたい。

3. 学習の到達目標：近現代の〈怪異〉のメディア表象の検討を通して、日本学研究について知見を得ることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 怪異研究の現在
- 第 3 回 井上円了と「妖怪」
- 第 4 回 三遊亭圓朝と怪談の翻案
- 第 5 回 科学と千里眼事件
- 第 6 回 初期探偵小説の可能性
- 第 7 回 泉鏡花の圏域
- 第 8 回 昭和怪談ブーム
- 第 9 回 心霊と国家改造
- 第 10 回 戦争怪談の射程
- 第 11 回 オカルトブームの時代
- 第 12 回 水木しげると妖怪キャラクター
- 第 13 回 雑誌『ムー』とナショナリズム
- 第 14 回 J ホラーの拡散
- 第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学学芸分析特論Ⅲ

曜日・講時：木曜3限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：西原 志保

コード：LM24302, 科目ナンバリング：LJS-OHS612J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人形の文学・文化論

2・授業の目的と概要：日本文学や日本文化における人形表象を見ることで、身体や労働について考える。人形は人の形をとることで、人間とは何かという概念や、身体感覚と結びつく。また、人形は女性と重ねられることが多いため、ジェンダー論的な観点からも注目する。

3. 学習の到達目標：アニメや漫画、映画などにおける人形表象を通し、現代社会や文化の構造を理解し、自らとの関係を考えることができる。また、様々な資料を参照し、関連づけながら、自分の読みを提示するスキルを身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

- 1 ガイダンス：テキストを読む手法
- 2 人形は客体か：乱歩・川端・澁澤龍彦
- 3 球体関節人形と「内面」：笹野頼子『硝子生命論』と天野可淡「解かれたガラスのリボン」
- 4 人形の心と体：PEACHPIT『ローゼンメイデン』
- 5 サイボーグと人形と労働：『R.U.R』『ブレードランナー』『イノセンス』
- 6 女性と人形と「書くこと」：『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』
- 7 人形とケアワーク：『トイストーリー4』
- 8 むいぐるみとケアワーク：『逃げるは恥だが役に立つ』におけるAIとクマのむいぐるみ
- 9 折りのウサギ：『MIU404』第4話におけるウサギの編みぐるみ
- 10 むいぐるみとラブドール：森見登美彦『四畳半神話体系』におけるクマのむいぐるみ
- 11 動物と人形：京極夏彦『魍魎の匣』と『ルー＝ガルー』
- 12 人形と生殖：笹野頼子『水晶内制度』と猫エッセイ・小説
- 13 血と出産とラブドール：是枝裕和『空気人形』
- 14 自然な去勢と人工的な生殖：菅実花『ラブドールは胎児の夢を見るか？』
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：履修者全体の上位10%程度を「AA」とし、次に優秀な20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は指定しない。参考書は適宜授業内で指示する。

7. 授業時間外学習：授業内で扱う書籍や映画・漫画は、事前に読んでおくことが望ましい。授業内で分からなかった点は自分で調べたり、質問したりすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学学芸分析特論Ⅳ

曜日・講時：集中講義

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小松 史生子

コード：LM98810, **科目ナンバリング：**LJS-0HS612J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヴィランの文化

2・授業の目的と概要：19 世紀半ば以降の大衆文化を、ヴィラン (Villain) 表象を軸に分析する。ヴィランの表象に潜在するテキスト構造やナラティブについて、理論的に解析する。

3. 学習の到達目標：大衆文化の成り立ちを学際的・体系的に学ぶことで、現代社会構造を形作ってきた欲望の歴史を理論的に追究する思考力が身につく。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 怪盗 I
- 第 3 回 怪盗 II
- 第 4 回 詐欺師
- 第 5 回 剣鬼 I
- 第 6 回 剣鬼 II
- 第 7 回 悪女 I
- 第 8 回 悪女 II
- 第 9 回 怨霊 I
- 第 10 回 怨霊 II
- 第 11 回 人獣
- 第 12 回 秘密結社
- 第 13 回 ヴィラン文化史に関する論点の提示と議論①
- 第 14 回 ヴィラン文化史に関する論点の提示と議論②
- 第 15 回 ヴィラン文化史に関する論点の提示と議論③

5. 成績評価方法：履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：特に指定しない。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学歴史分析特論 I

曜日・講時：集中講義

Semester：2 単位数：2.00 単位

担当教員：大澤 絢子

コード：LM98811, 科目ナンバリング：LJS-OHS603E, J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：修養と教養の女性史

2・授業の目的と概要： 本講義では、近現代日本の女性の精神文化史をテーマに、明治以降の日本社会で女性たち「自己」がどのように形成され、その向上が目指されてきたのかを考察します。

個人と社会・他者との関係を文学・宗教・哲学・教育学・社会史・ジェンダー史などの多様な領域での議論を手がかりに読み解くことで、多様な要素が組み合わさりながら積み重ねられてきた日本女性と精神性の実態や変化について考え、多様なものの見方を身につけます。

3. 学習の到達目標： 「より良い自己とは何か」、「いかに自分を高めるか」といった問いは、性別を問わない課題と言えるでしょう。

近代日本において、そのような問いは主として、宗教や哲学のほか、道徳や学問、文学などを通して追究されてきました。

本講義では、この問いを女性に焦点を当て、多様な側面からその歴史的経緯を考察します。

近現代日本の精神形成に関する主な事象を学び、日本社会に生きる人々の多様な価値観を理解する力を身につけることを目指して、以下の3点を到達目標としています。

1. 明治以降の日本社会における女性たちの自己形成に関して基本的な知識を習得する。
2. 異文化圏の人に日本文化と精神性の関係について要点を説明できるようになる。
3. 「自己磨き」や「自己」に関する事象に関心を持ち、自らの考えを述べられるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

(概要)

- ・スライドやレジュメを用いて授業を行います。
- ・講義内で、各回の内容に関する課題（リアクションペーパー）を提出してもらいます。
- ・提出課題の一部は授業内で紹介しますが、その際は匿名で取り上げます。
- ・コメントや質問を通して受講者の理解度の確認し、疑問の解決をしながら授業を進めます。

(スケジュール)

- 【1】 イントロダクション
- 【2】 明治日本と精神性
- 【3】 修養・教養とは何か
- 【4】 立身出世と錬成型修養
- 【5】 たしなみと修養・教養
- 【6】 働く女性が目指した自己
- 【7】 婦人団体のなかの修養
- 【8】 家電が作った女性の教養文化
- 【9】 女性の余暇時間を考える
- 【10】 「つきあい」と女性の生き方
- 【11】 働く女性と自分磨き
- 【12】 自己を管理する女性たち
- 【13】 高齢社会と女性の生きがい
- 【14】 ディスカッション
- 【15】 講義のまとめ

5. 成績評価方法：出席および各回の課題提出（100%）

- ・各回課題として、リアクションペーパーの提出を求めます(テーマは各回提示します)。
- ・5回以上課題の提出がない場合は、評価の対象としません。

*評価方法や注意事項については授業中にも説明しますので、よく確認してください。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しません。

授業内で関連書や動画などを紹介します。

7. 授業時間外学習：特になし。

・各回の人物に関連する資料や書籍などを読んだり、各自の興味関心に合わせて調べたりしておき、講義後はレジュメを読みながら復習するとよい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

- ・履修学生の人数や関心に応じて授業内容や運営方法を一部変更することがあります（その場合には事前に周知・説明をします）。
- ・質問や相談などは、授業後またはメールで受け付けます。
- ・受講にあたり、社会学や思想史に関する専門的知識の有無は問いません。

科目名：現代日本学社会分析特論 I

曜日・講時：水曜 2 限

Semester：1 単位数：2.00 単位

担当教員：田中 重人

コード：LM13202, 科目ナンバリング：LJS-0HS604J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本における家族と人口
2. 授業の目的と概要：特に家族制度と人口現象に注目して、近代以降の日本社会について講義する
3. 学習の到達目標：現代日本社会の分析のために必要な知識と方法を知る
4. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 第 1 回：はじめに：社会分析のための知識と方法
 - 第 2 回：法と規範
 - 第 3 回：法的な情報を調べる方法
 - 第 4 回：現代日本の家族法について受講生からの報告と討論
 - 第 5 回：現代日本の家族法について補足説明
 - 第 6 回：人口統計と人口現象
 - 第 7 回：20 世紀日本社会の人口変動
 - 第 8 回：講義前半の振り返り
 - 第 9 回：ライフサイクルの変化
 - 第 10 回：近代化にともなう社会変動
 - 第 11 回：工業化と都市化
 - 第 12 回：イエ制度の解体と個人主義化
 - 第 13 回：日本的経営と福祉国家
 - 第 14 回：講義後半の振り返り
 - 第 15 回：講義全体のまとめと講評
5. 成績評価方法：授業中に課す課題および宿題による
6. 教科書および参考書：なし
7. 授業時間外学習：各回の課題に対応する予習・復習と宿題
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
9. その他：
授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本学総合演習 I

曜日・講時：月曜 5 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：田中 重人、茂木 謙之介、赤井 紀美

コード：LM11502, 科目ナンバリング：LJS-OHS607J, 使用言語：日本語・英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学の実践
2. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について資料に基づいて課題を設定し報告する。
3. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。
4. 授業の内容・方法と進度予定：
各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトにもとづき、研究を進める。授業においては、受講者が研究の経過と課題を報告し、討論をおこなう。
第1回：はじめに
第2回：研究プロジェクト管理に関わるガイダンス
第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス
第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①
第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②
第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③
第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④
第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤
第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥
第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦
第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧
第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨
第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩
第14回：日本学の課題についての総合討論①
第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ
5. 成績評価方法：発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）
6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。
7. 授業時間外学習：Expand your knowledge through preparing reports and considering the content of questions during reports.
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
報告の準備および報告時質疑内容の検討を通して知見を拡充する。
9. その他：

科目名：現代日本学総合演習Ⅱ

曜日・講時：月曜 5 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：田中 重人、茂木 謙之介、赤井 紀美

コード：LM21501, 科目ナンバリング：LJS-0HS608J, 使用言語：日本語・英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学の実践
2. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について資料に基づいて課題を設定し報告する。
3. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。
4. 授業の内容・方法と進度予定：
各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトにもとづき、研究を進める。授業においては、受講者が研究の経過と課題を報告し、討論をおこなう。
第1回：はじめに
第2回：研究プロジェクト管理に関わるガイダンス
第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス
第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①
第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②
第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③
第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④
第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤
第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥
第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦
第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧
第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨
第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩
第14回：日本学の課題についての総合討論①
第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ
5. 成績評価方法：発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）
6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。
7. 授業時間外学習：Expand your knowledge through preparing reports and considering the content of questions during reports.
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
報告の準備および報告時質疑内容の検討を通して知見を拡充する。
9. その他：

科目名：現代日本学学芸分析研究演習 I

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：赤井 紀美

コード：LM12303, 科目ナンバリング：LJS-0HS609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本戯曲分析

2・授業の目的と概要：この授業では、日本の戯曲作品の読解を通して、それぞれの表現の特徴を明らかにし、その意義を広く文化史の中に位置づけることを目指します。

3. 学習の到達目標：戯曲を主体的に読解することができる。
文学や映画など他のメディアや社会的・文化的な文脈において作品を意義付けることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回担当者による発表と討論を行う。

第1回 イン트로ダクション

第2回 担当者による発表

第3回 担当者による発表

第4回 担当者による発表

第5回 担当者による発表

第6回 担当者による発表

第7回 担当者による発表

第8回 担当者による発表

第9回 担当者による発表

第10回 担当者による発表

第11回 担当者による発表

第12回 担当者による発表

第13回 担当者による発表

第14回 担当者による発表

第15回 担当者による発表

5. 成績評価方法：発表の内容や討論への関わりかたにより評価する。発表テーマについての個別のレポートによることもある。

6. 教科書および参考書：授業時に指示する。

7. 授業時間外学習：自分の発表の準備を整える。発表後の質問や討論を研究に反映させる。他の学生の発表原稿を事前に読み、質問と議論の準備をする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学歴史分析研究演習 I

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：雲然 祥子

コード：LM15202, 科目ナンバリング：LJS-0HS610E, J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人物・作品から考える日本の近代・現代

2・授業の目的と概要：人が生きた背景には、歴史と時代情勢の変化がある。この授業では、受講生の興味・関心のある人物を 1 人取り上げ、その生涯や事績をたどる作業を行うことで、近代・現代の日本の歴史や社会情勢などを学ぶことを目的としている。

それらの作業によって、その人物が生きた時代に何が起こっていたのか、それがどのような影響を与えたのかなどを文献や史資料を利用しながら考える。そして、今日の国内外における諸問題を考える手がかりをつかむ。

3. 学習の到達目標：歴史的な知識および思考力・表現力を身につける。

様々な史資料の分析・読解を通して、当時の社会情勢を理解できる。

現実社会における課題を発見し、それに対して自らの意見を持ち、適切な言葉で整理できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 課題の設定・先行研究の調査・注意事項

第 3 回 ケーススタディ（事例報告①）

第 4 回 受講生による発表

第 5 回 受講生による報告・議論①

第 6 回 受講生による報告・議論②

第 7 回 受講生による報告・議論③

第 8 回 受講生による報告・議論④

第 9 回 ケース・スタディ（事例報告②）

第 10 回 受講生による報告・議論⑤

第 11 回 受講生による報告・議論⑥

第 12 回 受講生による報告・議論⑦

第 13 回 受講生による報告・議論⑧

第 14 回 これまでの報告・議論のまとめ

第 15 回 授業のまとめ・期末レポート作成に向けて

ただし、受講生の進捗状況に応じて、内容が変更になる場合がある。

5. 成績評価方法：授業中の課題（20%）および報告・討論（30%）、期末レポート（50%）を総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。各自でレジュメを作成し、それに基づいた報告を行うこととする。参考書については、授業の中で適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：史資料・文献などを利用し、授業・演習で学んだことをふまえて、報告者の研究テーマに関する史実や当時の社会情勢などを事前に学習しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学社会分析研究演習 I

曜日・講時：金曜 4 限

semester：2 単位数：2.00 単位

担当教員：田中 重人

コード：LM25401, 科目ナンバリング：LJS-0HS611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本における社会問題の分析

2・授業の目的と概要：日本における社会問題について、各自の関心に基づいて問いを立て、資料・データを収集・分析し、批判的思考と議論を通じて答えを導くプロセスを体験する。

3. 学習の到達目標：社会問題を分析するための基本的なスキルを習得する

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

受講者各自の関心にしながら文献調査を行い、途中経過の報告と討論を行いながらレポートを作成する。

- はじめに：この授業での課題設定と調査の方法
- 文献データベースの利用と論文の読みかた
- 論文について発表
- 引用をたどる
- 中心的情報源
- 専門用語と理論体系
- 資料の評価と活用
- アイディアの創出
- 議論を組み立てる
- 研究プロジェクトの計画と遂行
- レポート提出および口頭試問

5. 成績評価方法：授業中の課題（30%）、途中経過等報告と討論での発言（30%）、期末レポート（40%）

6. 教科書および参考書：【参考書】佐藤望ほか（2020）『アカデミック・スキルズ』（第3版）慶應義塾大学出版会

7. 授業時間外学習：授業で指示する課題をこなしながら、各自の関心にしながら研究プロジェクトを進める

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

授業資料は <http://tsigeto.info/study/> に掲載予定。